

78. 東北アジア非漢族諸王室儀礼における礼的〈逸脱〉の基礎的研究

大阪大学 大学院人文学研究科 教授 伴瀬 明美

概要

本研究は、東北アジア諸王室における王権儀礼の比較史研究という問題関心のもとで、中国礼制からの〈逸脱〉の在りようとその歴史的背景を解明しようとするものである。主な研究対象は、中国礼制の影響を受けつつ、その受容にあたって強い独自性や〈逸脱〉がみとめられる金・高麗・日本である。

具体的には、①狩猟遊牧民を中核とする北方王朝金の儀礼史料である『大金集礼』の解説と訳注作成、②王室儀礼空間の巡検（琉球・朝鮮）、③東北アジア諸王室の後位・後宮・皇宮空間・王室儀礼等に関する研究会・国際研究集会・ワークショップ等の開催、④重要外国語論文の翻訳、関連文献目録の整備を行い、その成果は『東アジアの後宮』（勉誠社）として公刊したほか、個別研究論文や研究成果報告書において公開する予定である。

今後も儀礼書・儀式書の解説という堅実な手法により、歴史事象の表面的な比較にとどまらない比較史研究を進めるとともに、制度や王室儀礼において強い独自性を有した大越や琉球に研究対象を広げていきたい。

本助成金の授与をうけたことにより、分野を異にする研究者の協業的手法による共同研究や儀礼史跡の巡検が可能になっただけでなく、最新の中国語・韓国語関連研究論文の翻訳や関連文献情報の整備など、将来的な研究の広がりにも資する研究基盤の形成にも力を入れることができた。このような基礎的研究に手厚い助成をいただいたことに、改めて厚く御礼申し上げたい。

目的

日本や朝鮮半島等東北アジア諸王室には、中国礼制の影響のもと、共通して「后位」（皇后、王后等）という身位がみられる。諸王室の後位は中国礼制における儒教理念に基づく后位を参照して設定されたが、各王室における実際の「運用」、すなわち后位の在り方（儀礼・制度）は非常に多様であった。

これは北魏や金のような狩猟遊牧民を中核とする北方王朝における王室においても同様であり、身位の名称や一部の儀礼を踏襲していても、中国礼制からみれば独自性を超えて〈逸脱〉というべき側面を多分に含んでいる。本研究では、東北アジア諸王室における后位関連儀礼の比較史研究という大きな問題関心のもとで、中国礼制からの〈逸脱〉の在りようとその歴史的背景を解明することを目的とする。

方法

中国礼制の受容のあり方に関する研究は、主に中国・日本間、中国・朝鮮間の比較としていくつかの儀礼について試みられており、東アジア諸国の比較史的研究もさまざまな歴史事象を対象に行われている。しかし、本研究は中国・朝鮮・日本それぞれを専門とする歴史研究者が共に各地域の儀礼書・儀式書を解説するという協業的方法を土台とした比較史研究を特色とし、歴史事象の表面的な比較という方法では不可能な、掘り下げた研究成果を得ることを目指す。主な研究対象は、中国礼制の影響を受けつつ、その受容にあたって強い独自性や〈逸脱〉がみとめられる金・高麗・日本である。

具体的には、①后位関連儀礼に関する礼典・儀礼書等の解説、訳注作成、②皇宮・祭祀空間の調査、③后位関連儀礼における〈逸脱〉の諸相およびその背景に関する研究、④中国語・韓国語重要文献の翻訳、后位関連文献目録の増補、を軸に研究を進めた。

成果と課題

具体的に行った作業や成果は次のとおりである。

①について

狩猟遊牧民を中核とする北方王朝金の儀礼史料である『大金集礼』巻五（皇后・皇太后冊立儀礼）の解説・訳注を行い、中原王朝の礼制からの影響や、狩猟遊牧民の文化に根ざした儀礼のあり方を具体的に考察するとともに、儀礼成立の歴史的背景及び金の皇宮空間や儀礼空間について検討した。

②について

共同研究として中国本土で調査を行う機会は逸したが、明清の冊封下でその影響を大きく受けた一方で、王権儀礼においては強い独自性を保ったとされる琉球及び、儒教を国家の正統イデオロギーとし、中国礼制を濃厚に継受することになったとされる朝鮮の王室儀礼史跡について、それぞれ王室儀礼の根幹にかかわる喪葬や祖先祭祀に関する史跡を中心に実地調査を行った。

③について

「東アジア后位比較史研究会」（研究期間中 19 回）、ワークショップ「魏晋南北朝期の〈伝統〉と〈文化〉」、国際研究集会「東アジアの葬喪儀礼と王権」を開催し、日本、金、高麗、元、北魏、朝鮮、漢、唐、明、北宋、琉球、南漢等の后位・後宮・皇宮空間・王室儀礼等に関する研究報告をもとに、〈逸脱〉の具体的様相を析出し、各国における社会構造や文化・習俗の分析、中原王朝礼制との比較検討を行った。

④について

分野を超えた比較史研究の促進を目的として、本研究のテーマに関連する唐・遼・百済・新羅・高麗・朝鮮・北魏等の后位、後宮や儀礼に関する最新の研究中国語・韓国語重要論文について、該当分野を専門とする研究者による翻訳を行った。また、関連文献目録や文献情報の整備を進めた。

本研究による成果は、『東アジアの後宮』として公刊したほか、研究成果報告書「東アジア諸地域における王室儀礼比較史のための国際的研究基盤の構築 王室儀礼関連翻訳論文／調査報告」として刊行した（機関リポジトリから公開予定）。訳注の成果、および比較史研究の具体的成果は、今後、個別研究論文や研究成果報告書において公開する予定である。

今後も儀礼書の解説と儀礼空間の調査とを土台にした堅実な実証的手法による比較史研究を深め、金・高麗・日本の王室儀礼の成立や変容を、当該地域における 10～13 世紀の歴史的展開のなかに位置づけていきたい。また、制度や王室儀礼において強い独自性を有した大越などの南方に研究対象を広げることも検討している。

(完)

発表論文

- 1) 伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子編『東アジアの後宮』（勉誠社、2023 年 6 月）
- 2) 『東アジア諸地域における王室儀礼比較史のための国際的研究基盤の構築 王室儀礼関連翻訳論文／調査報告』（研究成果報告書、2025 年 3 月 31 日）